



**2009年度  
活動報告**



# 国立看護大学校 Faculty Development(FD)活動報告

## 2009年4月～2010年3月

本学における教育の質の向上および改善を目指して、2009年度は、以下のとおり11回のFD研修会を開催した。

### 1. 「卒業研究の指導について」(2009年4月10日) 竹内文生教授

本学の卒業研究は、「文献検索の仕方、文献の論評」「論文講読(英語)」「研究方法」「研究計画書の書き方」および「ケーススタディ論文まとめ」から構成されている。4年次の卒業研究は各教員がそれぞれの担当学生に対して個別指導を行なっているが、より効果的な指導を目指して提案や意見交換がなされた。主に話し合われた内容は、政策看護実習との兼ね合い、学生のニーズ、自己学習、学生の自己評価および学生同士の評価、成績評価、経費、論文発表会、年間スケジュールなどである。

### 2. 「国際医療研究委託費の申請について」(2009年5月25日、26日) 佐藤鈴子教授

国際医療研究委託費の申請方法について、資料をもとに詳細な説明が行われた。

### 3. 「独法化に向けた本学の取組みについて」(2009年5月28日) 田村やよび大学校長

開学より10年経過した今日までの成果を評価したうえで、独法化に向けた今後の具体的な課題と取り組みについて説明がなされた。中期計画は「社会に対する契約」であり、本学の5機能(教育、研究、情報提供、研修、社会貢献)を中心に整備する方針が示された。

### 4. “Learning language (English) from different perspectives”

「言語(英語)習得について：具体的学習方法を含め様々な観点からの検討」(2009年6月25日)

松岡里枝子教授, David R. Evans 講師

英語習得(第二言語)を困難にしている要因について、Critical Period Hypothesis(臨界期仮説)とSocio-psychological factors(社会心理的要因)が紹介され、具体的な学習行動の提案や、有効なリソースの紹介がなされた。

### 5. 「国際医療研究費の研究課題に係る倫理委員会に関する説明会報告」(2009年7月1日) 小澤三枝子教授

「国際医療研究費の研究課題に係る倫理委員会に関する説明会」の説明内容について、配布資料に基づきながら重要事項に絞って説明がなされた。

### 6. 「SPSSの使い方について」(2009年7月9日) 柏木公一准教授

SPSS初級編として、入力方法や分析方法、基本的な検定について解説があり、操作練習を行なった。

### 7. 「成人看護学の教育について」(2009年8月27日)

久部洋子教授, 飯野京子教授, 石井智香子教授, 綿貫成明准教授, 遠藤晶子講師, 小山友里江講師

成人看護学の領域としての考え方の説明、講義と実習での実践内容や課題が報告された。課題については最近の試みや成果等が具体的に紹介された。また、教育活動を行っていく中で感じる最近の学生の傾向や現任教育を行う中で感じる本学学生・卒業生の特徴について説明がなされ、学生の成長や教育方法について様々な角度から考える良い機会となった。質疑応答では、科目や領域を越えて教育価値観を共有する時間を得ることができた。

### 8. 「老年看護学の教育について」(2009年11月6日) 林稚佳子教授, 三笠里香講師

老年看護学の科目の構成、科目の概要について説明があり、講義、演習、実習の教育活動状況や教育の課題について説明がなされた。また学生の主体的な学習態度の育成について意見交換がなされた。勉強の仕方が分からない学生には自分のやり方をつかむまでトレーニングする、主体的な学習を促すPBL(Problem-based Learning)を実施する、などの意見が出され、領域を超えた教員間で教育の課題を共有することができた。

### 9. 「臨床での研究と教育について」(2009年12月10日) 伊藤龍子教授

研究職と教育職の両立について、経験に基づいた説明がなされ、小児救急医療とトリアージ、成育医療における育児支援ネットワーク、小児看護学の教育など、多岐にわたる内容について議論の機会を得た。また、在宅看護の視点からの質疑応答もあり、領域を超えた教員間で様々な課題を共有することができた。

10. 「IMCJの国際保健医療協力」(2010年2月25日) 清水真由美准教授

IMCJの国際医療協力局の歴史, ミッション・活動目的, 具体的業務内容について, 数々の海外でのプロジェクトの経験などを交えながら紹介がなされた。国際看護学を目指して本学を選択する学生が多くいることもあり, 実際の国際看護(医療)の場で何がどのように行なわれてきているかについての情報共有は有意義であった。

11. 「平成22年度国際医療研究開発費に係る説明会報告」(2010年3月15日) 小澤三枝子教授

国際医療研究開発費を用いた研究の特徴や, 応募に際しての留意事項などについて, 説明会の内容が報告された。研究費申請の事前評価(5項目), 中間・事後評価(4項目)について説明がなされた。